

相生山緑地オアシスの森くらぶ ニュースレター

36号

2009.9.20 発行

発行/相生山緑地オアシスの森くらぶ編集委員会 発行人/大館 学 編集長/近藤 真史

INDEX

【本号掲載分の活動】

- 5月20日(木)… 戸笠小学校自然観察会/特別活動
- 5月23日(土)… 相生口の竹林管理/定例活動 (兼: トライアルサタデー第1回)
- 6月13日(土)… トライアルサタデー第2回/特別活動
- 6月27日(土)… トンボ池周辺整備/定例活動
- 7月25日(土)… 森の調査/定例活動 (兼: トライアルサタデー第3回)
- 8月22日(土)… 森のクラフト/定例活動
- 8月29日(土)… トライアルサタデー第4回/特別活動

※「トライアルサタデー」は、土曜日の子どもの体験活動を促進することを目的に実施されるもので、天白生涯学習センターが主催し、森くらぶのメンバーが講師となって、子ども達に様々な自然体験をしてもらいました。

5月定例活動

相生口の竹林管理



晴れ上がった5月の定例会は竹林管理で、午前中はトライアルサタデーを

兼ねての活動となりました。

トライアルサタデー第1回目のプログラムは「森の手入れを体験しよう」と銘打って、子ども達に竹切りを体験してもらいました。

今回2時間の講座のうち前半1時間は緑地を歩き、後半が竹林管理体験。相生口付近の竹の除伐に挑戦です。参加者は小学校低学年から中学生まで10数人。

森の散策にはイマイチ乗りの悪い子ども達でしたが、竹切りになると俄然張り切るのが手にとる様にわかってとてもおもしろかったです。

くらぶの皆さんに手取足取りで切り

方を習い、最初はふらふらしながらの作業でしたが、最後の方はしっかりしたノコギリの使い方が出来るようになりました。また帰りにはそれぞれ切った竹を手に持って本当にうれしそうでした。

午後からは、会員が残りの竹切りに精を出しました。作業の結果、雑木を覆っていた竹が払われて、見るからに気持ちの良い空間となりました。

地域の子も達が作業を通して里山と交流でき、良い体験になったのではないかと思います。私も機会があれば是非子ども達といっしょに竹を切りたいと思います。 (村田 英)

戸笠小学校 自然観察会

5月20日、晴れ。午前中に2回、戸笠小学校の5年生を3グループに分け、観察会を行いました。

森くらぶから森さん、河野さん、中島巳治男、中島ひろみのほか、荒池ふるさとクラブから渡辺さん、若宮さんが応援に来てくださいました。

時間が各回1時間あまり、2回目のグループは“急げーっ”と言って、途中から走って相生口にたどり着きました。

実生のコナラの発芽、アカメガシワの蜜腺にたかるアリの様子、タケノコの一日に伸びる早さ、萌芽更新等、各

グループは違った視点で話をしました。



「ネジキ(毒がある)…いい香り」「ガズミ…臭いがいまいち」「エビヅル…茎をかむと酸っぱくておいしい」「ヒサカキ…うわっ、まずい(ペッペッ)」…。

子ども達は食べるのが好きなようで“秋にまた来ます”ですって。でも鳥が食べるから人間も食べられるとは限りませんので、くれぐれもお気をつけあそばせ。 (中島 ひ)



(本記事の写真は、戸笠小学校の許可を得て、同校ホームページに掲載されたものを使わせていただきました。)

6月定例活動

トンボ池周辺整備



大きく掲載されたこともあり、なんと競争率20倍の難関を越えてめでたく参加できた7家族23名とともに、総勢40名以上での活動となりました。



▲池周辺の草刈りをする参加者たち

の時間なのにギンヤンマのヤゴがほかのヤゴを食べ始めており、その多さの理由が理解できました。特筆すべきは、水辺からヒメタイコウチが見つかったこと。トンボ池を作ってからほぼ10年がたち、トノサマガエルの復活に加え、自然がどんどん回復してきている様子を目にしてうれしくなります。

ヤゴの観察の次は、ジャガイモの収穫体験です。収穫したジャガイモは、昼に竹炭でホイル焼きにして「じゃがバター」でいただきました。

暑い日の作業でお疲れ気味だったので、少し長めの昼休みをとり、午後は山根口近くの竹林整備です。1時間半ほどの作業で、林の中は見違えるほどきれいになりました。(大館)

6月の定番であるトンボ池周辺整備は、ここ数年「春の環境デーなごや」の行事に協賛して、活動を続けています。今年は広報なごやの募集記事が2面で

池周辺の草刈りを終えた後、ヤゴの観察会では、アカトンボ系、シオカラ系に加え、今年はギンヤンマのヤゴがととも目立ちました。トレーに採集したヤゴを観察していると、ほんの少し

トライアルサタデー第2回

当日(6月13日)は、相生山口に子ども17人、大人23人が集まりました。

相生山からトンボ池まで、昆虫観察をしながら移動しました。途中ではアゲハチョウやカメムシの仲間などを見つけました。

トンボ池では、皆でまず周囲の草刈をしました。草刈ではバッタの仲間などが飛び出してきましたし、頭の上で

はヤンマの仲間が飛んでいました。

続いて、タモ網等を使って池の中の生き物を調査しました。アキアカネ、シオカラトンボ、ギンヤンマ等のヤゴのほか、ゲンゴロウの仲間、マツモムシの成虫も多数いました。そしてトノサマガエルのみ♀を2匹確認しました。一方昨年確認されたオオクチバスは、今年いませんでしたので一安心しました。

多くの生き物の生息の場となっているトンボ池をこれからも見守っていきましょう。(阿部)



シリーズ『森の住人たち』⑳



クロコノマチョウ(秋型)

～クロコノマチョウ～

細い道を通り抜けようとしたときである。突然、茂みから飛び出すものがあった。その動きを目で追うと、再び茂みに戻った。

ゆっくり身をかがめる。翅を二つ折りにして静止しているのは、クロコノマチョウだ。茶褐色の翅のふちには、大小の目玉模様が並んでいる。

姿全体を写すためにモニターで角度を確認している時だ。

「あっ」

思わず声をあげた。葉裏に鮮やかな緑色のさなぎ。それもひとつではない。ふたつ、みつつ…。

すでに羽化したあとのクリーム色のさなぎもいくつかある。すると今ここにいるチョウも羽化して間もないのかもしれない。眼前のさなぎの羽化も近々なのだろう。この場はクロコノマチョウにとって、いわば「命のゆりかご」。そっとしておこう。

チョウといえば、一般的に明るい太陽の

クロコノマチョウ(黒木間蝶) ジャノメチョウ科
前翅長 32~45mm 出現期 6~11月
分布 本州(千葉県以西の沿岸地域)、四国、九州
食餌 幼虫:イネ科のススキ、ジュズダマなどの葉
成虫:腐った果実、樹液、獣糞

もと、開けた草地での吸蜜などを思い浮かべるが、クロコノマチョウの好みではないらしい。黒っぽい翅の色で林内やその周辺の薄暗い所を好むことから、黒い色で木の間を舞うチョウということで名づけられたようだ。昆虫でありながら外観上の脚は2対である。

風が透き通ってくると、秋も本番を迎える。クロコノマチョウを観察するにはいい季節となる。ことに林縁を歩くときは気をつけよう。地表の色や落ち葉に同化してあなたを待ちうけているかもしれない。

(文責 自然案内人 近藤 記子)

7月定例活動

森の調査



トライアルサタデー第3回を兼ねたこの日の活動は、「森の調査」ということで参加者に木の実体を体験してもらいました。

まず、木はなぜ動かなくていいのか、葉っぱはなぜ緑色なのかなどQ&A形

式で木々に興味を持ってもらった後、コナラの木を一本選んで、全員が高さ、胸高直径、樹齢、重量、葉の数を予想して、各自のシートに記入しました。



▲木に関する質問に答える子ども達

くらぶメンバーから木の切り方の説明を受けて、一人一人が少しずつノコギリを入れて切り倒し、計測を開始。高さ12m、直径14cm、樹齢29年、重量107kgに関してはかなり近い数字を当てた子も数人いましたが、てこずったのは葉の数。先端に小さな樹冠が乗っただけの木だったので、参加者

のほとんどは3~4千枚と予想しました。そして、全員で数え始めたのですが、瞬く間に4千を超え、1万を超えても葉はまだ枝に付いています。意地と根性で数え続け、結果は1万8千枚でした。くらぶメンバーにも、新鮮な驚きでした。

予想と実測値に近かった数の多い子から順に、森さん特製の竹クラフトを賞品にもらって、意気揚々と帰って行きました。(伊藤 晶)



▲切り倒したコナラを玉切りにしてバネばかりで重量を計測

8月定例活動

森のクラフト



40年、いや50年も昔のことか、直径10センチもある立派な竹を材料に

して物作りに挑戦するのは…。森のくらぶに参加させていただいて6度目の定例会はクラフト作りでした。

会場の都合により午前中のみで、各自好きなものを作るということでしたが、小生はどこから手をつけていいのかテーマすら見つからない状態。結局は初参加の3月、ご馳走になった青竹の卵焼き容器に挑むことにしました。

ところがいけません。かろうじてこれまで経験した竹伐りは直角に切る事、目指す物は斜めに伐らないと格好がつかえません。右往左往ぶりを見かねた森さんに手助けいただいたのはいいのですが殆ど出来上がってしまいました。

何か味付けをとその日教わったばかりの青竹の皮むきに挑み、結果は調理器具ならぬ花器もどきに変身した次第です。その後、置き台用に再度斜め伐りを試みましたが成果を眼にした家内の大笑いをご報告してお察しいただくことに致します。(早川)



▲見本として並べられた森さんの作品

トライアルサタデー第4回

夏休みも終わりに近づいた8月29日、トライアルサタデーの最終回「竹のマイ箸を造ろう」が、相生小学校研修室で行われました。参加者はやや少なく

て11名。くらぶ員6名がお手伝いです。最初に森さんが本日の箸造りの説明をし、各自材料となる竹の端材と小刀を持って作業開始。初めは乾いた竹材だった為、小刀での加工がやりにくい

との声が出て、材料を半乾きのものに換えてから皆黙々と作業に取り組み、思い思いの作品が出来上がりました。自分の箸を造ってから、兄弟や父母の箸まで造る子や、菜箸造りに取り組む子などおいて、自分で自分の道具を造る楽しさを味わってもらえたと思います。

最後に、森さんから、お手本となる箸1膳がプレゼントされ、4回にわた

るトライアルサタデー「子供里山体験塾」は終了しました。講師のみなさんありがとうございました。(大館)



第2物置小屋 竣工

9月5日。手狭だった「くらぶ」の物置小屋に加えて新たな小屋が出来あがりました。8月22日午後と合わせ、延べ2日間をかけての作業となりました。



小屋は従来と同じ物置タイプで大き

さも同程度のものを小屋西側に設置しました。小屋本体の設置は業者の方にお願いしましたが、基礎部分はくらぶの皆さんの手作業です。夏の一番暑い時期に桜の大木を切り倒し、雑木伐採、根切り、砂利による基礎部土の置き換え、前面の敷石張り等に大いに汗を流していただきました。

今回作業のトピックスとしては新規入会の村田さんのチェーンソーが挙げられます。手切りならどれだけ時間を要

するかわからない大木の伐採が、あっという間に終わりました。

物置スペースの拡大により、今後は道具の出し入れに苦勞することはないでしょう。

最後に今回の小屋設置は、天白土木の理解、地主さんの承諾、会員の皆さんの作業が不可欠でした。小屋設置の発起人として関係各位にお礼申し上げます。(村田 英)



▲チェーンソーを操る村田さん



村田 正昭さん

緑区相原学区在住。入会のきっかけは、森の中の掲示板でニュースレターを見て、参加してみようと思ったそうです。趣味は自然観察、山行。そのほか、以前から豊田オイスカ森林塾に参加して、森林ボランティアをしていたそうです。

Schedule

【定例活動予定】

集いの広場 10:00集合

- 9月26日(土) 柴刈り大会・いのちの谷整備
- 10月24日(土) 第11回どんぐり祭り
- 11月28日(土) 竹林の整備&竹炭用材づくり
- 12月26日(土) 正月準備&梅の剪定
- '10年1月23日(土) ツツジの園再生
- 2月27日(土) アカマツ林再生プロジェクト
- 3月27日(土) 第12回萌え木祭り

●●●●● 会員募集中! ●●●●●

このクラブは、相生山緑地オアシスの森を活動の場として、昆虫、鳥類を含めた、多様性のある森づくり、環境づくりなどのフィールドワークを行い、会員同士のふれあいや、オアシスの森を通じて地域の人との交流などを行う、楽しい集いです。

具体的な活動内容は_____

- ◆オアシスの森を訪れる人々に、自然観察の方法や楽しみ方を知ってもらえるよう案内する。
- ◆公園管理者と協力しながら、オアシスの森での植生管理作業を行う。
- ◆植物、野鳥や地形、地質、気象などの調査を行う。
- ◆柴刈り大会や自然観察会などのイベントを適宜行う。
- ◆その他、目的を達成するために必要な事業を行う。

○会費は年間1,500円(保険料含む)です。主に連絡、郵送費です。
○振り込み先(郵便局) オアシスの森くらぶ 00860-7-33725

Information

【参加申込み・お問合せなど】

事務局

伊藤百寿人 052-895-8523

中島己治男 052-803-9534

【Eメール】

Mail address :

aioiyama-moriclub@mail.goo.ne.jp

★参加申し込み・お問い合わせなどをメールでも受け付けています。

★会員の皆さんへ・・・活動に関する各種の情報を提供するため、メールアドレスをお持ちの方はお知らせ下さい。

【ホームページ】

URL address :

<http://f44.aaa.livedoor.jp>

[/~oasis/index.html](http://f44.aaa.livedoor.jp/~oasis/index.html)

★ニュースレターのカラー版(PDFファイル)がダウンロードできます。

★定例活動・特別活動の報告や予告などを随時更新しています。

ホームページ管理・作成スタッフを募集しています!

お手伝いいただける方、興味のある方、是非ご一報を!!